

2017 年度(平成29年度)学校評価自己評価表

至誠 中学校区	校番 73	福山市立 山南小学校
最終更新日		2017年(平成29年)10月26日

I 福山市

ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。 ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。
--

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容 至誠中学校区スタンダード(①早寝早起き朝ごはん②挨拶・返事③家庭学習)の定着を通して、知・徳・体バランスのとれた地域に開かれた校区の教育活動の充実を図る。	児童生徒の現状 ・積極的に挨拶をすることができ規範意識が高いが、自己有用感が低い。 ・基礎学力の定着は見られるが、学習習慣の確立と活用力及び基礎体力に課題がある。	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”) めざす子ども像 (義務教育修了時の姿) 中学校区として統一した取組等	主体的に学び合う力 主体的に課題を発見し、協働して解決することができる子ども ○授業づくり：めざす子ども像の実現に向けて、各校それぞれが計画的に授業を公開することを通して、「自ら考え学ぶ」授業づくりの充実を目指す。 ○至誠中学校区スタンダードの定着：各発達段階毎に目指す姿を設定し検証し改善を図る。 ○小・中学生との交流：小中学校合同行事(合唱コンクール・挨拶運動・絵本の読み聞かせ等)の開催
--	---	---	--

III 自校

ミッション ○主体的に問いを立て、他者と協働しながら解決する児童を育てる。 ○友だちやふるさとを大切に、関わり合いながら、自己有用感を高める児童を育てる。 ○心身の健康に関心を持ち、明るく元気な児童を育てる。	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”) 「主体的に問いを立て、他者と協働しながら解決していく力」 1 自分から進んで取り組む力(主体性) 2 友達と協力する力(協働性) 3 自分らしく表現する力(創造性) 4 みんなのことを考えみんなのために働く力(社会貢献力)				
学校教育目標 志をもち、社会で活躍できる児童の育成	主体性 ①目標 自分にとってふさわしい目標やめあてを決めて学習できる。	②積極性 グループやクラスでの話し合いの時に自分の考えや意見を積極的に出せる。	③実行 グループや自分で決めた計画にそって、進んで調べたり作ったり発表できる。		
現 状 <児童生徒> ○基本的な学力は概ね定着し与えられた課題に対しては、真面目に取り組む児童が多い。 ○自ら考え学ぼうとする力や意欲が、不十分である。 ○勉強が好きと答える児童が少なく、学習に対する意欲が低い。 ○固定化した人間関係の中で積極的にコミュニケーションを取ろうとする態度が不十分である。 <授業> ○単元末テストの平均正答率：国語(84%)算数(83%)理科(88%) ○「授業が楽しい」という児童の肯定的評価：国語(82%)算数(81%)理科(98%) ○「授業が分かる」という児童の肯定的評価：国語(93%)算数(92%)理科(99%) ○自ら考え学ぶという学習意欲が課題である。	協働性 ④対話 自分の意見やアイデアを友達に納得してもらえるように説明し合える。	⑤協力 グループワークの時に、友達と協力して課題やめあてに取り組める。	⑥練り上げ 友達の良いところやアドバイスを生かし合って、より良い考えや作品を作れる。		
	創造性 ⑦発想 新しいアイデアや工夫はないかと、いつも自分で考えられる。	⑧個性 じぶんらしい考えを生かして文章を書いたり発表したりできる。	⑨質問 「なぜだろう?」「どうしてかな?」といつも質問を考えられる。	⑩社会貢献力 ⑩思いやり 相手の気持ちを考えながら、互いの存在や立場を尊重しようとする。	⑪公共心 公共の利益のことを考えようとする。
	研究 教科等 国語科・音楽科 主題・内容等 主体的な学びを育てる授業づくり ～主体・協働・創造・社会貢献をキーワードにして～				
	めざす授業の姿 ○自ら問いを立てる場がある。 ○協働し解決する場がある。 ○自分らしく表現する場がある。 ○みんなのことを考えみんなのために働く場がある。				

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立 山南小学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)			
							□指標に係る取組状況	力也評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	力也評価	達成評価	総合評価
初	○主体的に学び、確かな学力を身につけた児童を育成する。	★	新規	○他者と協働して解決する児童を育成する。	○他者と協働して解決する場を位置づける。	△国語、算数、理科において単元末テストの正答率を各教科、低90%中85%高80%以上にする。 △標準学力テストにおいて50%未満の児童を15%以下にする。	○単元末テスト正答率：低87%中83%高85% →概ね達成 ○全国学力6年：国算共ほぼ平均、基礎基本5年：国算共に▲10理I平均+15理II平均+4→5年が課題	3	3	①上半期の取組を継続するとともに、協働的完全習得をめざす。 ②必達目標を明確化し、継続的意欲喚起による達成感を高める。				
初	○友だちやふるさとを大切に、関わりながら成長し、自己有用感を高める児童を育成する。		新規	○自己有用感の高い児童を育成する。	○人のためになる行動を認め、奨励する。 ○児童会活動を推進する。	○自己有用感に係る児童アンケートを実施、肯定的評価を80%以上にする。	○全学年同じ目標様式により取りませた結果、80%にすることができた。 ※アンケート「社会貢献への喜びや達成感を感じる」	3	3	①継続して肯定的評価を行うとともにお互いを認め合う場を学級活動に設けていく。				
初	○心身の健康に関心をもち、明るく元気な児童を育成する。		新規	○運動に親しみ、体力を身につけた児童を育成する。	○体育の授業改善を図る。 ○基本的な生活習慣の改善を図る。	○新体力テストにおいて、DEの児童を15%以下にする。 ○生活振り返り週間での達成児童を80%以上にする。	○新体力テストにおいて、D、Eの児童を7%にすることができた。 ○早寝69%、早起き83%、朝ご飯84%、メディア78%の達成率であった。	4	4	①課題のあった種目に関わる授業改善研修を実施する。 ②生活の実態を家庭・保護者と共通認識をし啓発を継続する。				
初	○保護者・地域に信頼される学校を創る。		新規	○地域に信頼される学校を創る。	○校区スタンダードの取組を進める。 ○地域に学校の取組を開示する。	○保護者アンケートの肯定的評価を90%以上にする。	○保護者アンケートの肯定的評価は92%。 校区スタンダード86%、開示98%の達成率であった。	4	4	①保護者・地域と連携した教育活動の充実を図り、校区スタンダードの徹底、情報を発信していく。				

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。